

一般

次のリストは、前処理の際にトラックから回収される潤滑油、フルードおよび部品を示したものです。量は概略値です。



環境

有害なフルードを扱うときは、こぼれないように容器を使用してください。

エンジン：	仕様	量
9 リッターエンジン	オイル	20 ～ 34 リットル
11 リッターエンジン		23 ～ 30 リットル
11 リッターおよび 12 リッターエンジン		28 ～ 38 リットル
14 リッターエンジン		22 ～ 30 リットル
16 リッターエンジン		30 ～ 47 リットル
オイルフィルター	オイル	2 リットル
フューエルフィルター	軽油／エタノール	
コンプレッサー	オイル	0.5 リットル
ターボコンパウンド	オイル	0.3 リットル
フューエルタンク	軽油／エタノール	
触媒コンバーター		

クリーニングシステム：	仕様	量
9 リッターエンジン	クーラント	40 リットル
11 リッターエンジン		50 リットル
11 リッターおよび 12 リッターエンジン		50 リットル
14 リッターエンジン		80 リットル
16 リッターエンジン		80 リットル

クーリングシステム：	仕様	量
電動冷却ファン	オイル	2 リットル

トランスミッション：	仕様	量
クラッチ	ブレーキフルード	0.4 リットル
ギアチェンジクラッチ付きトルクコンバーター	オイル	25 リットル
	クーラント	3 リットル
マニュアルギアボックス	オイル	9.5 ～ 18.5 リットル
ZF トランスマチック	オイル	43 リットル
- ギアボックス		
- ギアチェンジクラッチ付きトルクコンバーター		
- リターダー		
オートマチックギアボックス	ATF オイル	30 ～ 50 リットル
Opticruise	オイル	0.3 リットル
PTO (パワーテークオフ)	オイル	0.5 ～ 2 リットル
Scania Retarder	オイル	7.5 リットル
トランスファーギア	オイル	6.5 リットル
フロントアクスルギア	オイル	11 ～ 14 リットル
リヤアクスルギア	オイル	10 ～ 18 リットル
リヤアクスル、オイルフィルター	オイルフィルター	
ハブリダクションギア	オイル	0.7 ～ 2 リットル
タグアクスルリフト	オイル	3.6 ～ 5 リットル
リヤステアドタグアクスル	ATF オイル	5 リットル
コンプレッソドエアタンク		

ステアリング：	仕様	量
パワーステアリング	ATF オイル	4 リットル

キャブ：	仕様	量
エアバッグ		
ベルトプリテンショナー 付きセフティーベルト		
キャブティルトポンプ	ATF オイル	0.8 リットル
エアコンディショニング コントロールシステム	冷媒ガス R134a	1.5 kg
ACL リザーバー	グリース	2 kg
リフリジレーター	冷媒	
ウォッシュータンク	ウォッシューフルード	14.5 リットル

電装部品：	仕様	量
バッテリー、VPS		
スターターバッテリー		

ホイール：	仕様	量
バランスウェイト	鉛	

イソシアン酸塩



警告！

イソシアン酸塩は、車両に使用される一部の塗料、パテ、接着剤、プラスチックフォームから発生します。蒸気、塵、またはエアロゾルの形でイソシアン酸塩を吸引すると、気道の粘膜に喘息症状を伴った刺激および肺機能の障害を生じることがあります。たとえわずかであっても高濃度のイソシアン酸塩に曝されると、永続的な過敏症を引き起こすことになります。

複合的な形態でイソシアン酸塩を含んでいる製品を 150° C 以上に加熱すると、イソシアン酸塩が放出されます。これにより、高濃度のイソシアン酸塩と接触することになります。これは、イソシアン酸塩を含んでいる塗料を上面に塗布している製品を研削、溶接、または切削する場合などに当てはまります。このため、作業を行う場所が十分換気されていることを確認してください。上述の作業を行う作業者は、エア供給式レスピレーターマスクなどの保護具を使用してください。

イソシアン酸塩を含むおそれのある材料を加熱する際は、どのような危険も冒さないようにしてください；材料がイソシアン酸塩を含むものと仮定し、必要な安全対策を講じてください。

車両火災



警告！

車両に火気が生じると、健康や環境にとって有害な数多くの物質が形成されます。煙や水がこれらの物質を運びますが、それらはある程度車両内に（灰として）残ります。

火気が生じた車両を分解する際は、次のことを考慮してください：

- ・ 火気が生じた車両の作業を行うときは、レスピレーター付き保護具や手袋などの保護具を使用してください。皮膚が灰と接触しないようにしてください。
- ・ 車両の強度が弱くなって、リフティングポイントに悪影響を及ぼしている場合があります。キャブをティルトさせるときは、このことも考慮してください。
- ・ ガスダンパーを構成する部材が弱まっていたり、損傷している場合があるため、穴を開けていないガスダンパーは爆発するおそれがあります。
- ・ 分解を始める前に車両を洗浄してください。

次のことに留意してください：

- ・ 火気が生じた原因の調査が完全に終わるまでは、分解を始めないでください。
- ・ 火気が生じた車両にある電源は、バッテリーケーブルを切り離してできるだけ早く遮断してください。これは、新たな火気を生じさせるショートを防ぐためです。
- ・ 火気が生じた車両では、水分が灰や一部の消火剤と組み合わせることなどが理由で、腐食が加速されます。車両をできるだけ早く処理して、環境に有害なフルードや物質が漏れたりするリスクを最小限にしてください。
- ・ 車両を洗浄した水には、環境に有害な汚染物質が含まれています。そのため、火災で損傷した車両は、洗浄水が環境を配慮した方法によって処分されるような手法で洗浄してください。



! 重要！

- ・ 製品の加熱を伴ういずれの作業を行うときも、その種の作業に関する安全規制を遵守してください。
 - ・ 作業開始前に、車両への電源を切ってください。
 - ・ エアベローズの作業を行うときは、システムを加圧しないでください。
-

エタノール



警告！

エタノールに関連するリスク：

- ・ エタノール燃料は極めて可燃性が高く、注意深く取り扱う必要があります。エタノールは可燃性クラス1として分類されています。
- ・ エタノールフェューエルは、健康に害があります。エタノールが目や皮膚に接触した場合は、水で洗い流してください。
- ・ 十分に換気されたエリアでエタノールを取り扱ってください。
- ・ エタノールの蒸発ガスは閉じられたおよび開かれた容器内の双方で、温度が約9° Cで空気との可燃性混合物となります。
- ・ この蒸気は空気よりも重いため地表に沿って拡散し、発生源から遠く離れて引火する恐れがあります。
- ・ 噴流が自由落下しないようにしてください；そうしない場合、静電気を帯びて火花が生じる可能性があります。
- ・ 等電位ボンディング（アース）によって火花の発生を防ぎます。
- ・ エタノールはほとんど見えない炎で燃え、煙は出ません。エタノールの燃焼はこのため白昼には検出しにくいです。

! 重要！

エタノールの安全に関する注意事項および装置：

- ・ エタノール燃料を取り扱う際には、各地の法規を遵守してください。
- ・ ワークショップでの作業用としてエタノール浄化手順を確立してください。汚染を除去するためには、砂または Absol が必要です。
- ・ こぼれたエタノールは、エタノール燃料が軽油と混合しないよう設計されマーキングが施された特殊容器に保存します。
- ・ 燃料取り扱い時には、耐エタノール性のある保護手袋や保護メガネを着用してください。木綿の衣類が推奨されます。
- ・ 粉がエタノール火炎を消すための最良の消化剤です。